



8月全員協議会(8/16)報告

掛川市子ども計画の策定

国のことも基本法に基づき、市としての子ども計画策定が進められています。委託予算もつけアンケート調査も実施しての計画です。

アンケート結果より抜粋(保護者回答)

◎希望通り学校に進めなと思う人の理由
・経済的余裕がない 48.6%

◎理想より子どもの数が少ない理由

・子育て費用が大変 80.8%

・仕事との両立がむずかしい 60.2%

◎家計において負担を感じるもの

・食費 50.8%

・税金 44.3%

・学校以外の教育費 35%

◎子どもにとってあるといい支援

・生活や就学の補助 79.5%

◎最も必要と支援は

・経済的支援 46.3%

・学・心機会・体験の提供 19.5%

アンケートの切実な声をどう取り上げるかが問われています。子どもの居場所づくり、施設のバリアフリー化、相談窓口の拡充など案が強調していることも無重要ですが、まずもって多くの声が寄せられている「子育ての経済的負担の軽減」「ふつうに働きながら子育て出来る環境の整備」に正面から取り組むことが先決です。

保育施設の利用定員変更

少子化と共働きが当たり前になる中、幼稚園定員が減ります。ところが需要が多く待機者を出す3才未満児の保育定員を増やすことができていません。ほとんどが民営化されてしまった保育施設

保育士の確保もままならない中で経営を圧迫する1・2歳児の拡充が遅れます。

掛川市「下水道ビジョン」

10年間で汚水処理の単独槽を下水道や合併槽に切り替えていく計画です。下水道区域の見直しも行ないます。ウォーターPPPの導入(民営化)、下水道使用料の値上げも経営戦略見直しには含まれています。税金で市が行なう公共サービスとしての責任を持った対応は譲れません。

ガザ地区死者4万人超える

昨年10月以来のイスラエル軍の攻撃による死者数です。うち子どもは1万6千人以上、女性は1万1千人以上です。

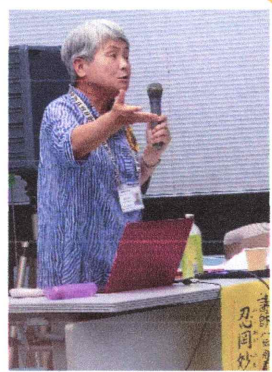
岸田首相の政権投げだし

南海トラフ地震や、豪雨災害など防災への備えも必要で、安心安全に日常生活をおくるための政治の力が試されています。こんな時に岸田首相は自らの自民党総裁選立候補を見送り、事実上政権を投げ出しました。金権政治をたたくこともできず、物価の高騰に苦しむ国民をよそにアメリカ言うなりの軍拡と献金をくれる大企業富裕層のための政策と続け国民の支持を失って久しいのに、負けが怖い総選挙を避け、自党内の総裁選で国民の批判をそらす。末期的です。だまされてはいけません。

平和のとりのくみの中で



市役所ロビーで開催されたヒロシマ・ナガサキから考える平和展



広島島の伝承者・忍岡妙子さんから切明さんの被爆体験をうかがいました

ヒロシマ・ナガサキから考える平和展、被爆伝承者のお話を聞く会では、戦争・平和・核兵器廃絶などに背筋を伸ばして取り組む決意を新たにしました。平和は待っていても来ない。

「英霊の御霊に哀悼の誠を捧げる」だけで、戦争の実態から目をそむけ、過去をなかつたことにしては、新たな戦争を呼び込み、戦後79年続いた非戦の歴史に終止符を打つ事になりかねません。



日暮れを彩るオシロイバナ
生きているのが大変なくらい本当に暑い夏です。「配布にも身の危険を感じる」の声もあり、しほこ通信も2週間のお休みをいただきました。

自民党政治そのものを終わらせることが必要で、頭をすげかえても自民党政治の中身は何も変わりません。これでは政治不信も広がる一方です。諸外国では普通に行なわれている政権交代こそ政治を根本から変える道です。